

敬老乘車証 利用実態調査結果報告

(1) 概要

敬老乗車証の利用者の実績データの集計

(2) 対象期間

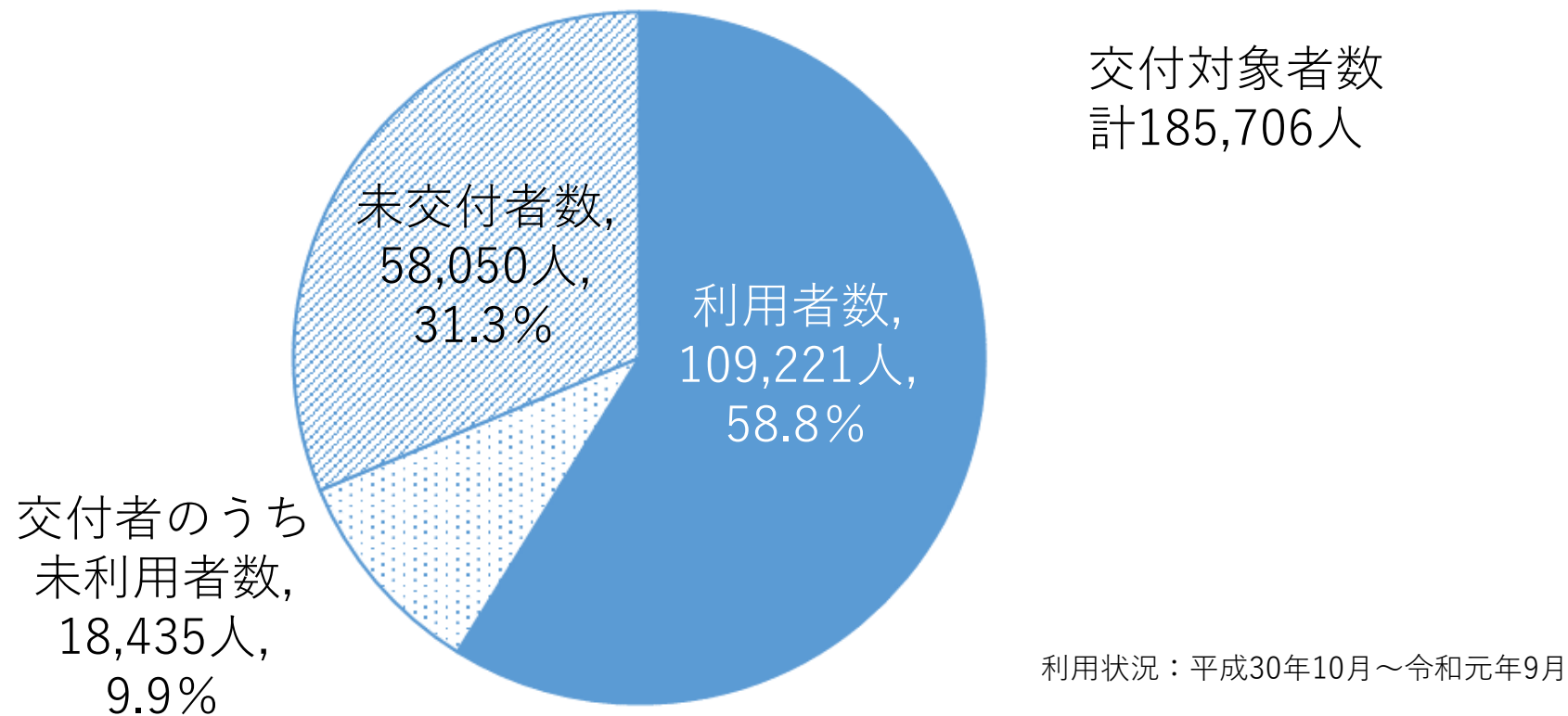
平成30年10月～令和元年9月

(新型コロナウイルス感染症の影響がない期間)

(3) 対象データ

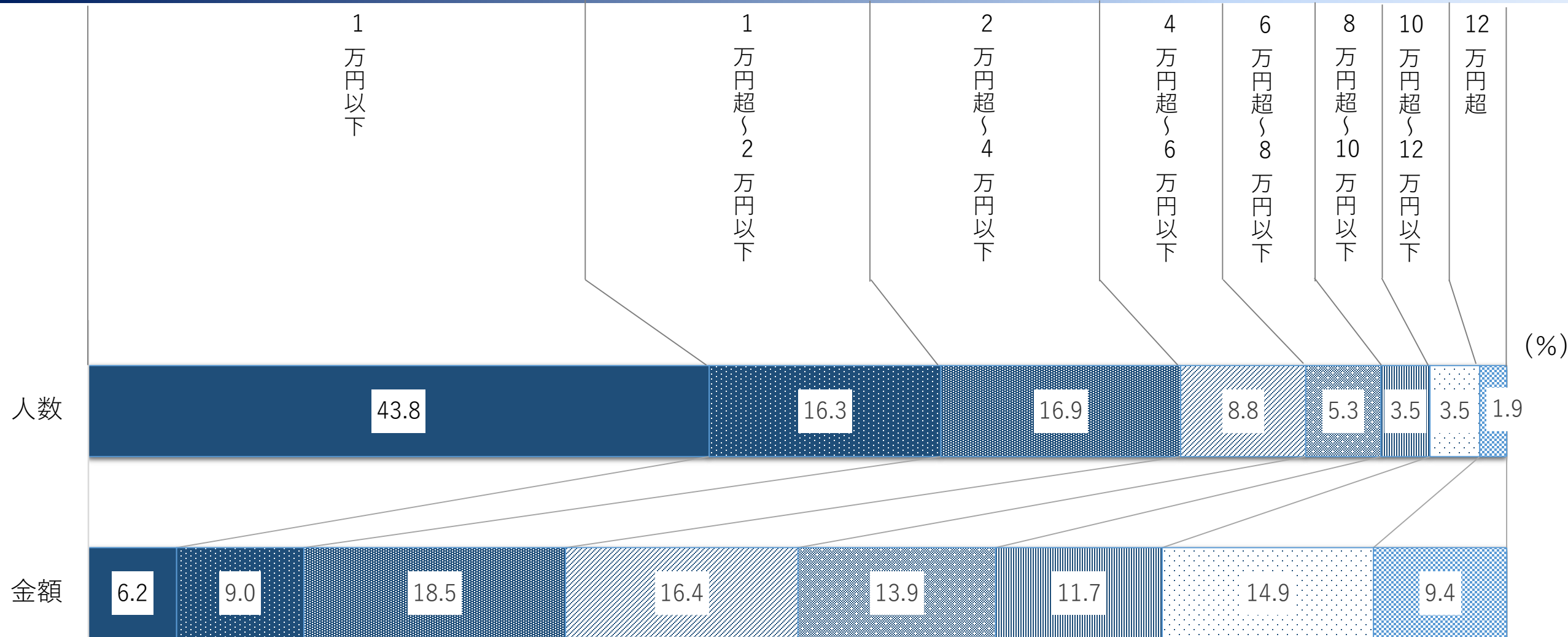
- ・ ODデータ (出発地(Origin)と目的地(Destination)の利用者データ)
- ・ 利用者属性 (年齢、介護保険料所得段階、包括圏域など)

利用状況① 交付利用対象者の利用状況



新型コロナウイルス感染症の影響がない期間として、平成30年10月から令和元年9月までの利用状況
⇒実際に制度を利用した方は、交付対象者数の約6割

利用状況② 利用人数と利用金額の構成割合



- ◆年間1万円以下の利用者の人数は、全体の約4割
- ◆利用金額が高い人の割合は少ないものの、金額では多くを占める
(12万円を超える利用者は1.9%だが、利用金額では9.4%)

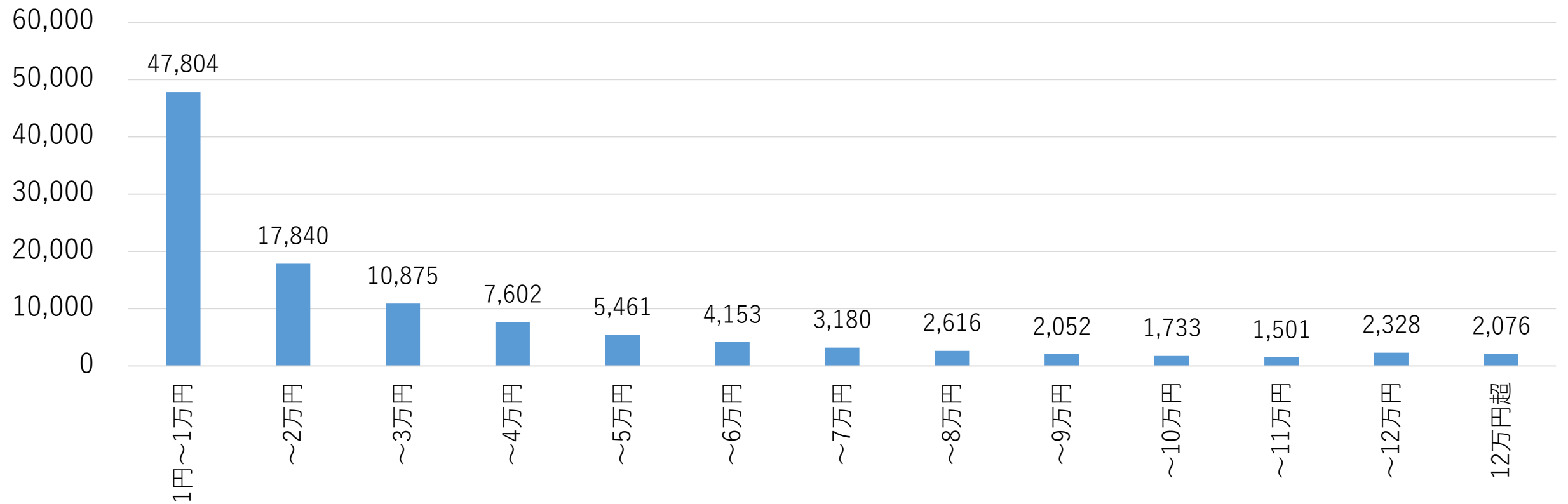
利用状況：平成30年10月～令和元年9月

利用状況③ 利用金額帯毎の利用人数

利用状況：平成30年10月～令和元年9月

n = 109,221

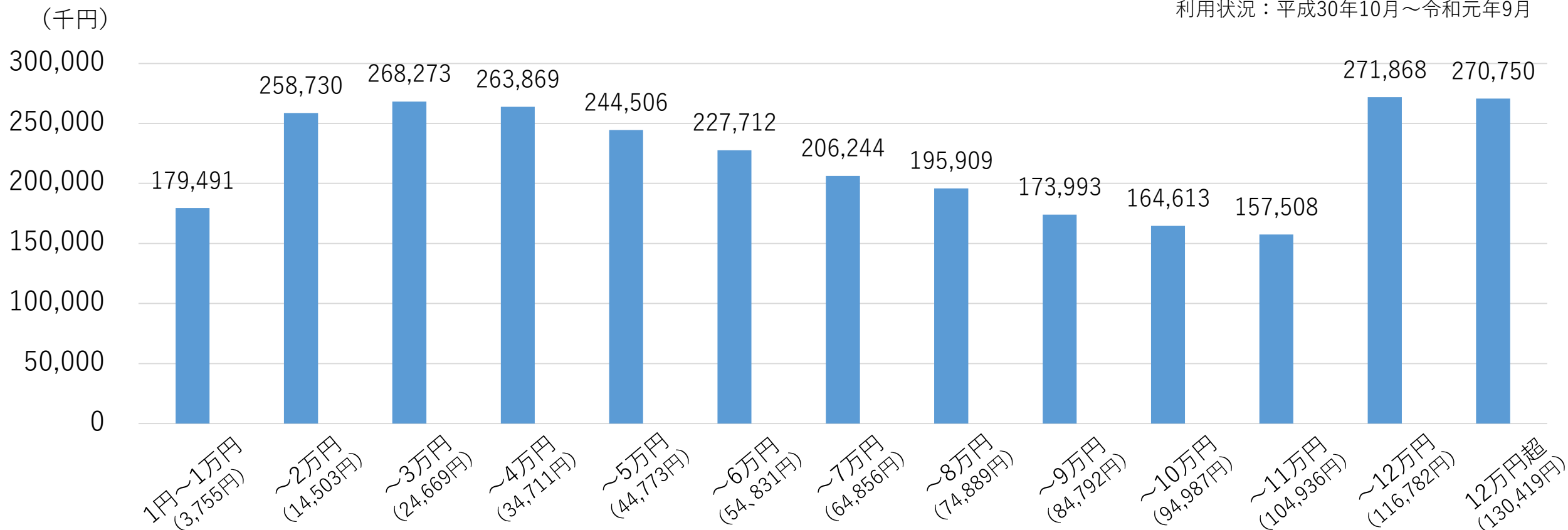
(人)



◆年間1万円以下の利用者の方が圧倒的に多く、約48,000人

利用状況④ 利用金額帯毎の総利用金額

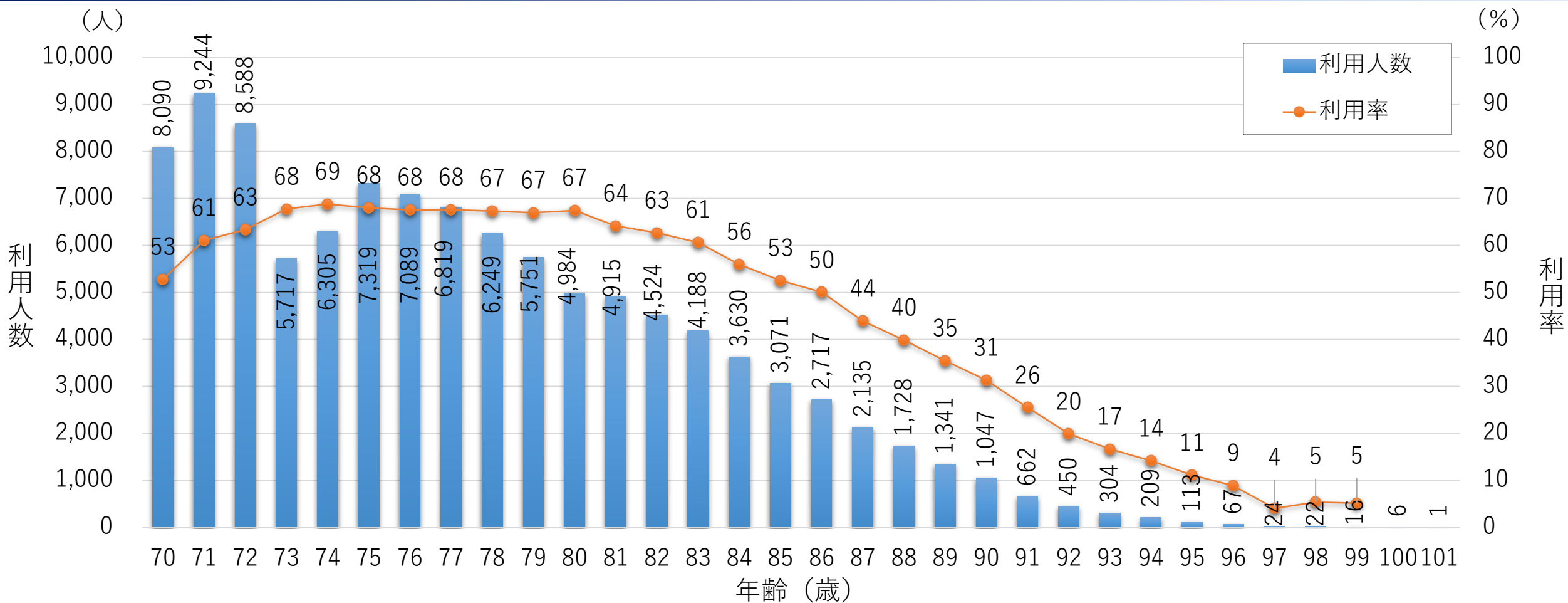
利用状況：平成30年10月～令和元年9月



() 内は、利用金額帯毎の一人あたり平均利用金額

- ◆年間1万円以下の総利用金額は、約1億8千万円
- ◆11万円から12万円以下、および12万円より多い利用金額帯の総利用金額はいずれも約2億7千万円と、他の利用金額帯よりも多い。

年齢別利用状況①

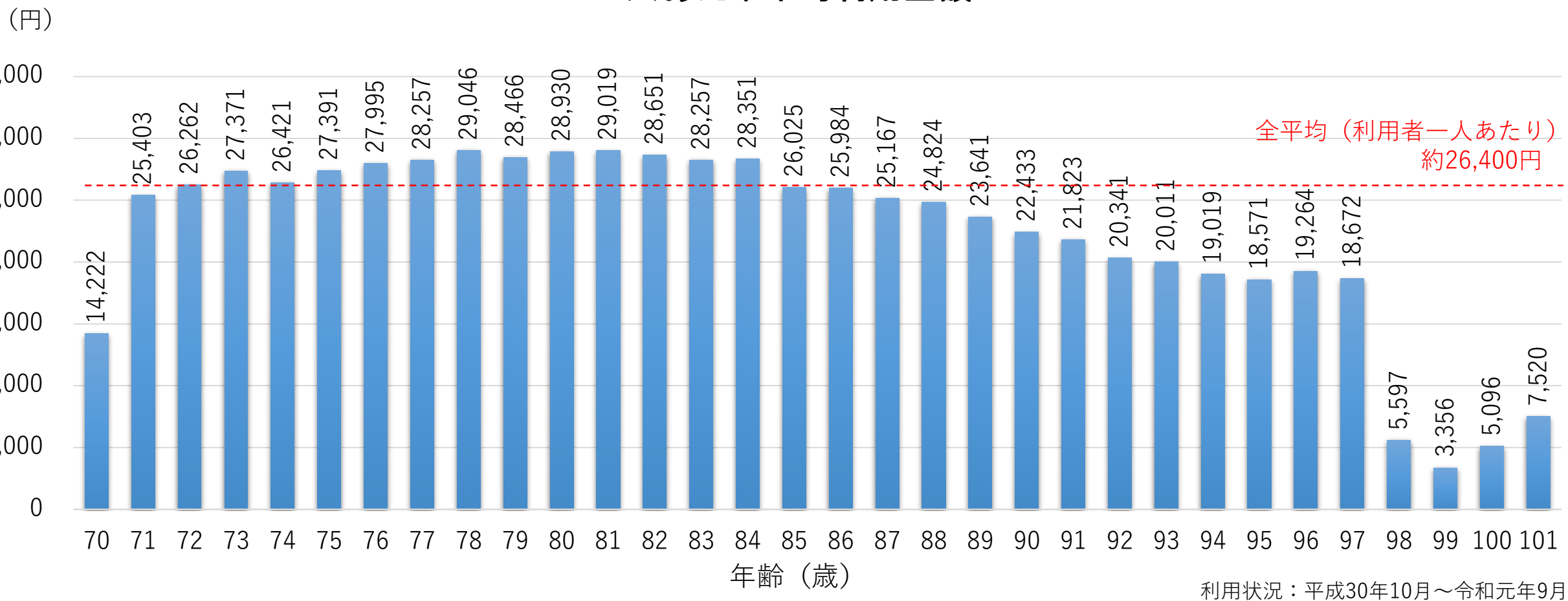


利用人数：平成30年10月～令和元年9月
 利用率：利用人数/人口（令和元年10月1日時点人口・住民基本台帳）

- ◆概ね、年齢が低いほど利用人数が多く、利用率が高い
- ◆80歳までは利用率がほぼ一定となっている

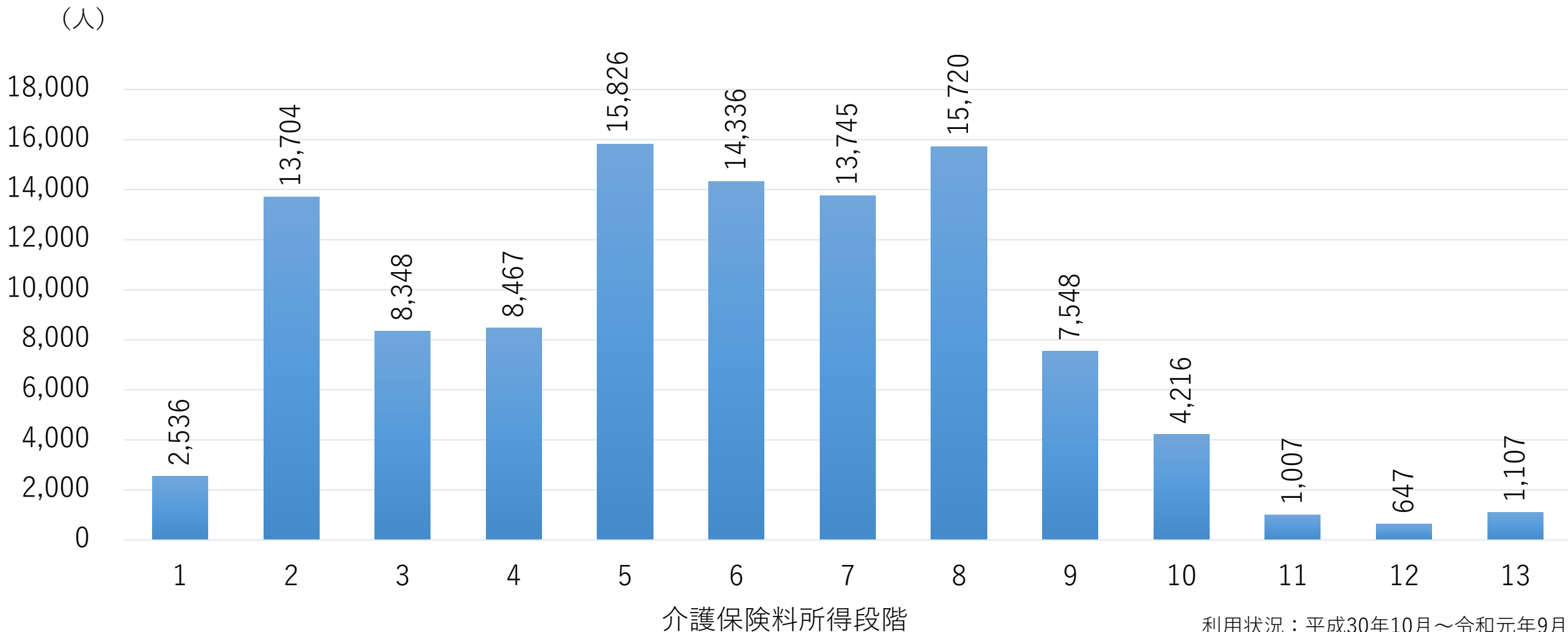
年齢別利用状況②

一人あたり平均利用金額



- ◆70歳は交付開始年齢のため、年央からの利用者が多く、平均利用金額が低い。
- ◆80歳前後の平均利用金額が高く、その後、徐々に平均利用金額は低下している。

所得段階別利用状況① 利用人数



- ◆所得段階2～9の利用者が多い
- ◆所得段階8以上では、所得段階が高くなるにつれて利用人数は少なくなる
- ◆介護保険料全体の人数分布と同傾向

介護保険料所得段階

- 1～4：世帯全員が住民税非課税の方
- 5～13：住民税課税者が同世帯にいる方、又は本人が課税されている方

所得段階別利用状況②

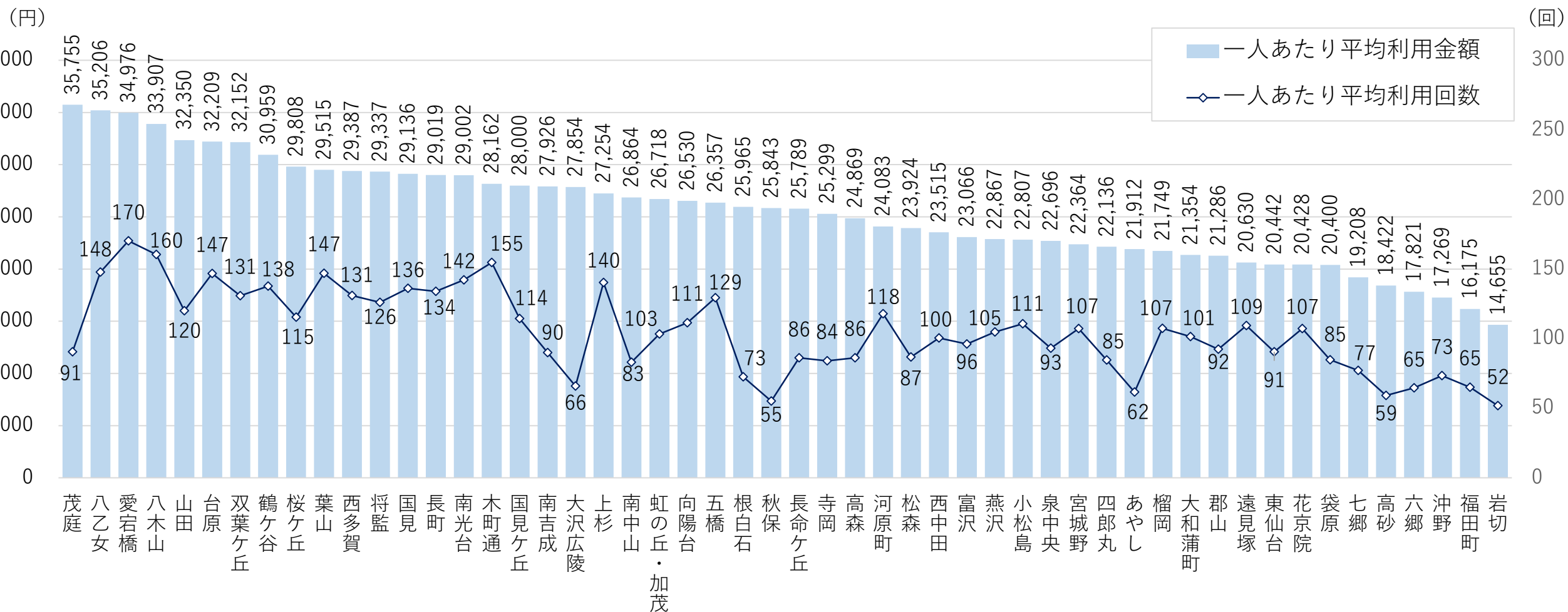
一人あたり平均利用額及び平均自己負担額（乗車料ベース）



利用状況：平成30年10月～令和元年9月

◆所得段階が低いほど、一人あたり平均利用額が高い

包括圏域別 利用状況



- ◆平均利用金額が高い包括圏域は、茂庭や山田のような郊外や、八乙女・愛宕橋・八木山・台原のような地下鉄沿線もある。
⇒運賃単価、平均利用回数（利用頻度）が影響している。
- ◆郊外でもJR沿線である西中田・あやし・福田町・岩切は平均利用金額が低い。

1 利用額の構成割合

- ・年間1万円以下の利用者の割合が最も多い

2 年齢別

- ・73歳から80歳までの利用率は67~69%とほぼ横ばい

3 所得段階別

- ・低所得者層は、一人あたり平均利用金額が高い
- ・高所得者層は、利用人数が少なく、平均利用金額も低い

4 地域別

- ・利用が多い地域は、郊外に限らず地下鉄沿線も含まれる
(運賃単価だけでなく、利用頻度の影響も大きい)